

〔19〕自動車部品(日本自動車部品工業会)

1. 目標

(1) 産業廃棄物最終処分量削減目標

2020 年度において、2000 年度比 68%削減する (4.5 万トン以下に削減)

(2) 業種別独自目標

〔再資源化率〕：2020 年度において、85%以上にする (2000 年度：69%)

(3) 業種別プラスチック関連目標

〔最終処分量〕：2020 年度において、2000 年度比 68%削減する (4.5 万トン以下に削減)

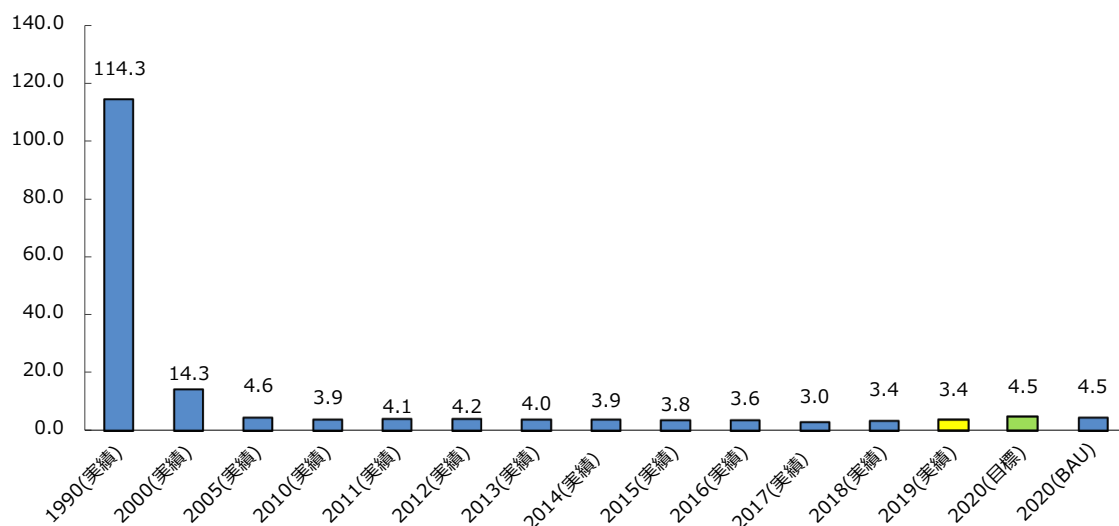
〔再資源化率〕：2020 年度において、85%以上にする (2000 年度：69%)

〔その他の取り組み〕：廃車時のリサイクル性向上に向けた自動車部品開発設計の推進と資源の有効利用、資源循環など 3R 活動の質的向上に努める。会員各社の廃棄物削減事例を収集し、その情報を共有して廃棄物削減を推進する。

2. 産業廃棄物最終処分量の削減状況

(1) 産業廃棄物最終処分量の実績

(単位：万トン)



※カバー率：51.9%

〔算定根拠：回答会社出荷額/(当工業会全出荷額 - 他団体報告会社出荷額)〕

※2020 年度 B A U は、2010 年度の実績値をベースに算出

〔算定根拠：自動車部品の生産は横ばいとして予測した〕

(2) 目標達成に向けた取り組み

① 主な取り組み

- ・歩留り改善、不良率低減など、製造工程における徹底した廃棄物発生量の抑制
- ・開発、生産、廃棄までを考慮した環境配慮（廃棄物発生抑制、リサイクル容易材使用・同一素材・易解体等）設計の推進
- ・分別の徹底による有価物化、廃棄物の社内外での再資源化
- ・焼却灰、スラッジのリサイクル化
- ・梱包材のリターナブル化、長寿命化

- ・複合材のR P F燃料化によるサーマルリサイクル等
- ・焼却残渣、スラッジの路盤材・セメント原料化等
- ・運転条件見直し・薬剤変更等による廃液の減量、再生・再利用
- ・廃棄物のリサイクル技術開発
- ・リサイクル先の新規開拓

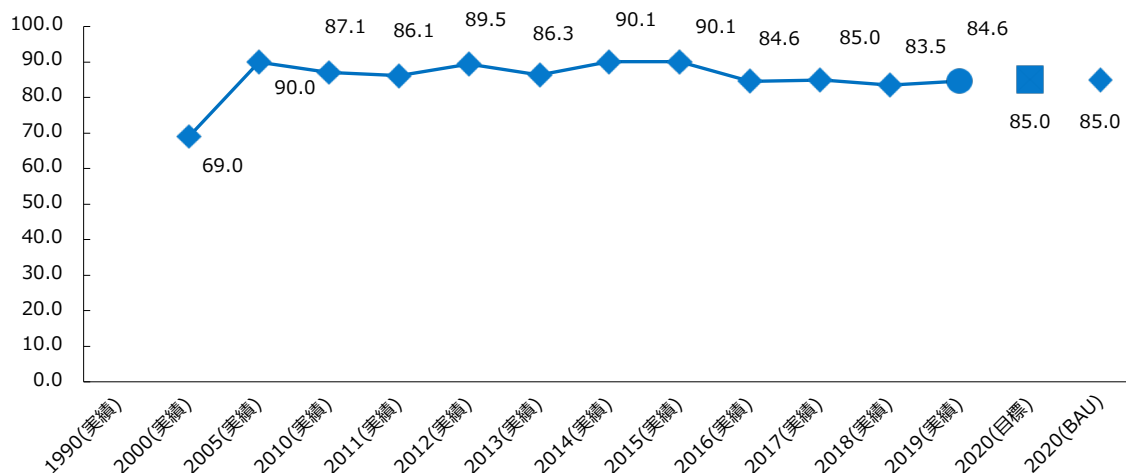
②実績に影響を与えた要因（技術的、内部的、外部的要因分析）

上記取り組みにより、最終処分量は 3.4 万トン（2000 年度比 76%減。昨年度と同等）となり、目標達成を維持している。今後も取り組みの継続・拡大や更なる改善を進め、目標達成維持に努める。

3. 業種別独自目標

（1）再資源化率の状況（数値目標）

（単位：％）



※指標の定義・算定方法等

〔算定方法：再資源化物量／産業廃棄物・有価物発生量〕

※カバー率：51.9%

〔算定根拠：回答会社出荷額／(当工業会全出荷額 - 他団体報告会社出荷額)〕

※2020 年度 B A U は、2010 年度の実績値をベースに算出

〔算定根拠：自動車部品の生産は横ばいとして予測した〕

※2016 年度、2017 年度、及び 2018 年度実績にデータ算出方法の誤りが有ったため、それぞれ 93.7→84.6、95.4→85.0、96.6→83.5 に訂正

（2）産業廃棄物改善事例の収集・展開の状況（定性的目標）

資源の有効利用、資源循環など 3 R の質的向上に向け、毎年、会員より毎年産業廃棄物改善事例を収集し、J A P I A ホームページ会員専用サイトに掲載している。今年度は 43 件の収集を行い、累計で 192 件を掲載している。

（3）目標達成に向けた取り組み

①主な取り組み

2（2）①に同じ。

②実績に影響を与えた要因（技術的、内部的、外部的要因分析）

前年度に比べ 1.1% 向上したが、わずかながら未達となっており、目標達成に向け、上記取り組みの継続・拡大、改善事例の共有等を推進する。

4. 業種別プラスチック関連目標およびその他プラスチックに関する取組み

(1) 数値目標とその実施状況

目標①〔a 既設〕	目標年度	基準年度
2020 年度の産業廃棄物最終処分量目標を 4.5 万ト以下とする。(2000 年度比で 68%削減相当)	2020	2000
実施状況 (これまでの実績)		
2019 年度実績は 3.4 万ト (2000 年度比産業廃棄物最終処分量削減率 : 76%) で目標を達成。引き続き目標達成維持に努める。		

目標②〔a 既設〕	目標年度
工場等から発生する副産物 (産業廃棄物・有価発生物) 全体の再資源化率を 85%以上とする。	2020
実施状況 (これまでの実績)	
廃プラスチック含め 2019 年度実績は 84.6%で、わずかながら未達。目標達成に向け取り組みを推進。	

(2) 定性的目標とその実施状況

目標①〔a 既設〕
廃車時のリサイクル性向上に向けた自動車部品開発設計の推進と資源の有効利用、資源循環など 3 R 活動の質的向上に努める。
実施状況 (これまでの実績)
部工会として、第 8 次「環境自主行動計画」※ (2016 年 4 月策定) で、循環型経済社会の構築に貢献すべく、自動車部品開発設計段階における廃車時のリサイクル性配慮、及び 3 R 活動の質的向上を実施指針として公表している。2019 年度においても、継続して実施指針にそって取り組みを推進。 ※部工会 第 8 次「環境自主行動計画」 https://www.japia.or.jp/work/kankyuu/independent/

目標②〔a 既設〕
会員各社の廃棄物削減事例を収集し、その情報を共有して廃棄物削減を推進する。
実施状況 (これまでの実績)
2020 年度に 43 事例をあらたに収集。2020 年 12 月時点で 192 事例を当会ホームページに掲載。

(3) 業種別プラスチック関連目標の達成に向けた取組み

① 主な取組み

2 (2) ①、3 (2) に同じ。

(4) その他、プラスチックに関連した活動や取組みなど(目標以外の取組み)

- ①次期(第9次)J A P I A環境自主行動計画へのプラスチック関連行動指針の織り込み検討。
- ②会員各社の環境月間行事等での工場周辺、河川・海岸のクリーン活動の実施。
- ③会員会社における環境教育を通じた海洋プラスチックごみ問題の現状と国際動向、取り組み説明による啓発活動。
- ④食堂等におけるワンウェイプラスチックの使用廃止。

5. その他、循環型社会形成に向けた具体的な取組み

(1) 製品ライフサイクルを通じた環境負荷低減への取組み

- ①環境配慮設計の推進(製品への材料名表示、軽量化・小型化、性能・効率の向上)
- ②使用済み部品のリサイクル・リビルト関連事業への取組み など

(2) 新技術・新商品開発

- ①設計段階におけるリサイクル性評価(解体容易性、再生・修理容易性等)
- ②使用済み自動車の材料リサイクルを考慮した使用材料名表示
- ③使用済み部品の再生・再利用の技術開発、リビルト事業の推進 など

(3) 国際貢献・海外活動

海外事業体も含めて産業廃棄物改善事例の収集・展開(当会ホームページで公開)を行い、会員間で情報共有を図る。

6. 2019 年度の特記事項

中国をはじめとする諸外国の廃プラスチック類輸入禁止措置に伴い、最終処分量の増加が懸念される。

以下に会員企業の現時点の影響と対応状況を示すが、対応策に限界があり、早期の国内での資源循環体制の構築が望まれる。

【影響】

- ・処理施設逼迫による処理単価値上げ。
- ・有価物の価格下落、産業廃棄物化。
- ・リサイクルされていた物が、焼却、埋め立て処分化。
- ・分別条件の厳格化要求。
- ・処理委託業者の撤退。

【対応状況】

- ・契約業者からの引き取り困難化に対し、新規委託業者の開拓、複数業者での処理委託契約。
- ・分別の高度化による有価物化。
- ・複数工場やグループ会社工場等からの収集・処理委託量増による処理先の確保。
- ・リサイクル先の新規開拓
- ・適正処理に向けた処理ルートの現地確認強化。

7. 直面する課題と政府・地方公共団体に対する要望（規制改革など）

- （１）廃プラの国内での資源循環体制の早期構築（構築までの暫定処置含め、法制度、優遇策・助成、支援、規制緩和、リサイクル技術開発支援等）
- （２）地方公共団体、省庁、業界団体等から廃棄物管理・処理に関する調査依頼の一本化
- （３）国と地方公共団体の廃棄物関係法規における二重規制の一本化
- （４）再生資源の使用拡大に向けた支援・施策、及び再生資源を使った製品の需要拡大に向けた施策（税制・補助金等の優遇措置、使用拡大に向けた義務付け等の法制化、消費者の啓発等）
- （５）県外のグループ企業含めた効率的な廃棄物処理に向けた規制緩和（搬入届けの簡素化・廃止、廃棄物収集運搬許可証の全国有効化）

8. 主要データ

（１）発生量・排出量・再資源化量・最終処分量・再資源化率 等

年度 ／ 指標	1990 実績	2000 実績	2005 実績	2010 実績	2011 実績	2012 実績	2013 実績	2014 実績	2015 実績	2016 実績	2017 実績	2018 実績	2019 実績	2020 目標
発生量 〔単位：万トン〕	288.7	222.3	175.6	159.8	137.4	143.2	148.2	152.1	147.1	159.0	168.2	165.6	190.3	—
再資源化量 〔単位：万トン〕	—	153.3	158.0	139.1	118.3	128.2	127.9	137.0	132.5	134.5	143.0	138.3	161.1	—
最終処分量 〔単位：万トン〕	114.3	14.3	4.6	3.9	4.1	4.2	4.0	3.9	3.8	3.6	3.0	3.4	3.4	4.5
再資源化率 〔単位：％〕	—	69.0	90.0	87.1	86.1	89.5	86.3	90.1	90.1	84.6	85.0	83.5	84.6	85.0

※指標の定義・算定方法等

〔本業種の主たる製品は自動車部品である。今回のフォローアップに参加した企業数は85社。出荷額は当工業会の全出荷額(他団体へ報告している会員企業は除く)の51.9％である。工業会の産業廃棄物量は参加会社の使用量に全社化係数 1.93 { (工業会全自動車部品出荷額－他団体へ報告している会員会社の出荷額) / 参加会社の出荷額 } を掛け算出している。〕